

富山トラフと北フォッサ地域の基盤テクトニクス

Basement-involved tectonics in the Toyama Trough and the North Fossa Magna, central Japan

竹内 章[1]

Akira Takeuchi[1]

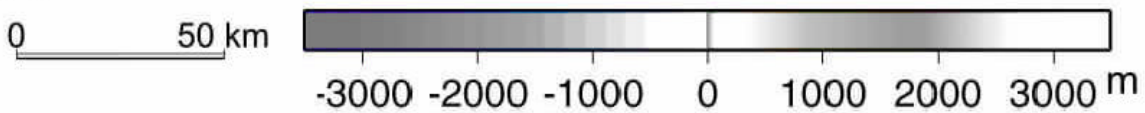
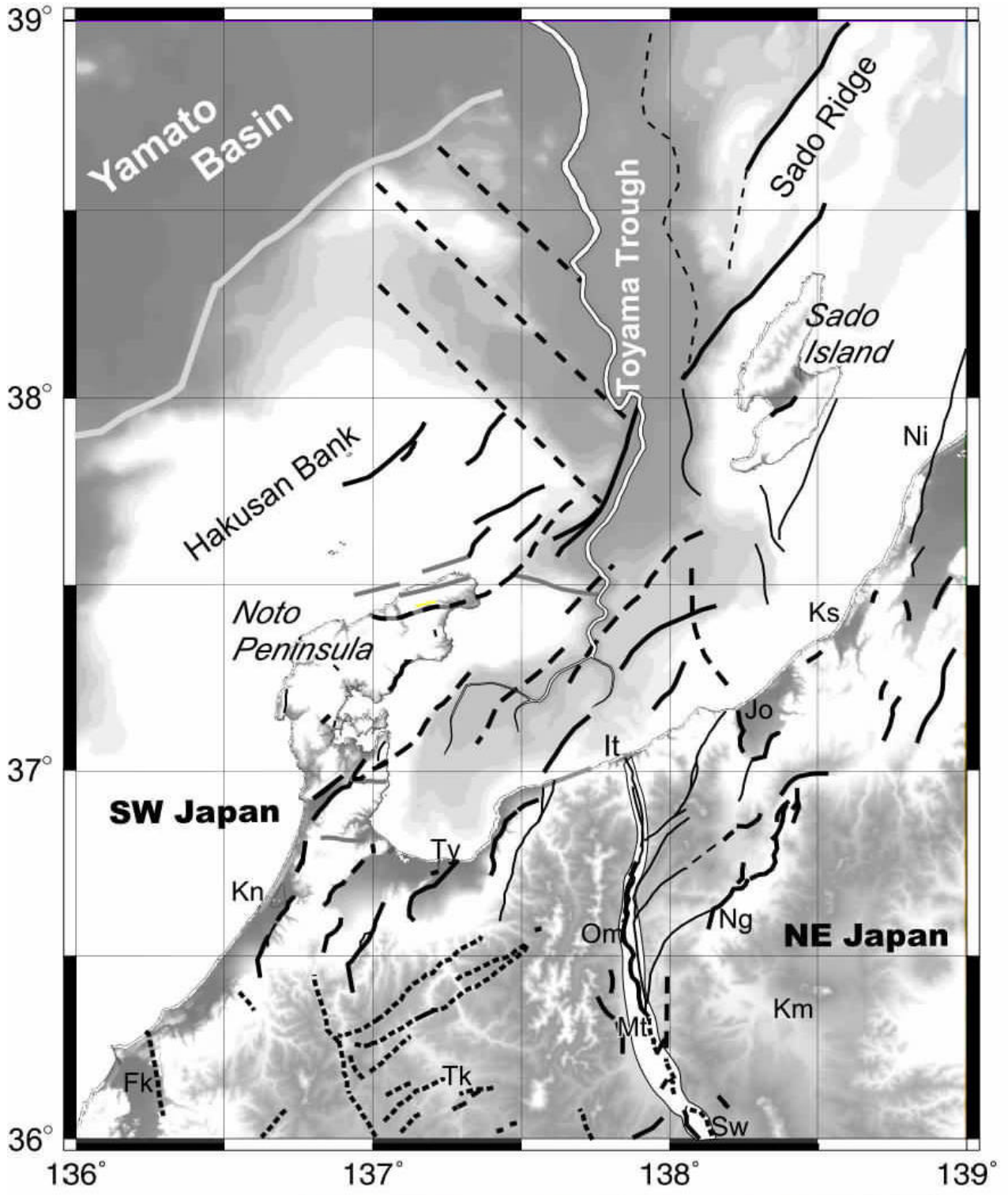
[1] 富山大・理・地球科学

[1] Dept. Earth Sci., Toyama Univ.

<http://ems3g.toyama-u.ac.jp/~takeuchi/>

富山トラフとフォッサマグナ地域は、元来、東北日本内帯（NEJ）と西南日本内帯（SWJ）の間に位置し、本州を横断する地殻構造上の大きな落ち込みである。糸魚川 - 静岡地質構造線（糸静線）は、フォッサマグナ地域の西縁であり、構造区 NEJ と SWJ を分画する。北フォッサの中新統中部～上部に見られる層厚の急激な側方変化は、これらの構造区間で極めて重要である。この地域にスラスト・褶曲帯が発達したプロセスは被覆層の側方圧縮だけでは説明できず、基盤を含むブロックの昇降運動と一体で説明する必要がある。

鮮新世以降の圧縮応力場に応じて、同じ断層ブロック境界線は復活して、西頸城帯の隆起と中央隆起帯の傾動をともなう差別的なブロック運動を生じた。このようなブロック運動を説明できる深部地質構造モデルは、延性領域である下部地殻の弱線に由来する地震発生層（上部地殻）の高角ブロック断層であろう。また、現在の深部構造に関しては、信濃川構造帯と糸静線の交差点が歪集中領域を作ると考えられた。ブロック運動とその再活動は、下部地殻に「虚弱地帯」が存在する証拠とみられる。



- Active Strike-slip Faults
- Active Reverse Faults
- Pleistocene Reverse Faults
- Late Miocene Reverse Faults
- - - - Early Miocene Normal Faults (buried)
- ~~~~~ Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line (ISTL)
- ~~~~~ Toyama deepsea channel